



## プライマリケアにおける COVID-19 の対応と今後の展望

グローバルヘルスケアクリニック

水野 泰孝

国内で初めて新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が確認されてからほぼ1年半が経過した。これまで多くのデータ解析や症例報告が公表されてきたが、プライマリケアを担う診療所における実態、すなわち軽症者についての情報は多くない。当院は帰国者・接触者外来と同様の機能を有する医療機関として、発生当初からCOVID-19患者の受け入れを積極的に行ってきたことから、自験例についての概要をまとめた。

発生当初から疑い症例も数例受診していたが、当時はPCR検査のハードルが高かったことから、確定診断に至った症例は2020年3月中旬からであり、2021年5月末までに89例の確定症例を診療した。年齢層は0歳から80歳までで10歳未満5.6%、10歳代7.9%、20歳代16.9%、30歳代25.8%、40歳代10.1%、50歳代14.6%、60歳代6.7%、70歳以上2.2%であった。

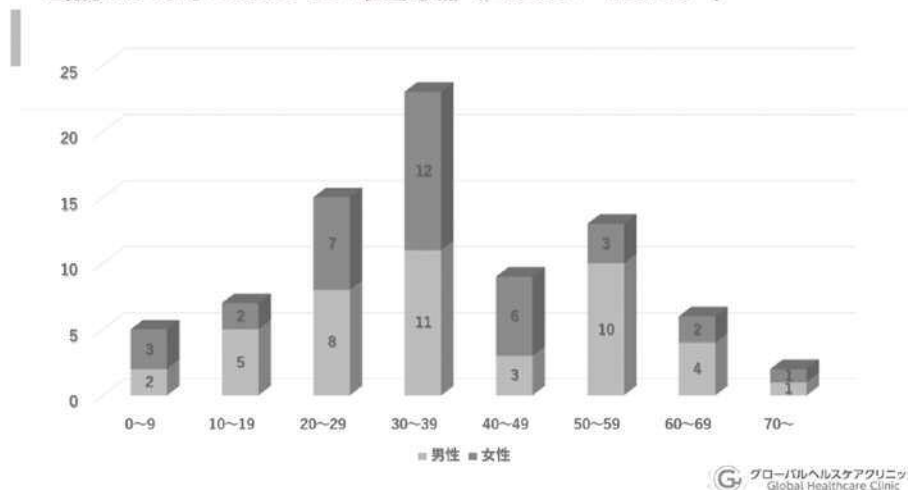
検査数はPCRおよび抗原検査を合わせて1152件で、行政検査を含む公費によるものが499件、自費によるものが653件であった。当院はトラベルクリニックでもあることから2020年5月頃から海外渡航者のCOVID-19関連検査証明書発行のために自費検査の需要が急増した経緯がある。検査陽性率は行政検査のみを実施していた2020年3～4月は30～40%であったが、自費検査も含めた5～11月までは10%未満を推移し、検査数が急増した年末年始およびゴールデンウィーク時期には12～15%程度になった。診察の結果、保険適用外と判断した受診者も含め、自費検査で陽性になった者はひとりもいなかった。

臨床症状は検査体制が整っていなかった2020年夏頃まではインフルエンザ様の高熱を主訴として受診する患者が圧倒的に多い印象があったが、検査が容易にできるようになった秋以降では発熱のない患者も散見されるようになった。全期間で37.5℃以上の発熱がみられた患者は37例（56.9%）であったが、1日のみの発熱で受診時には解熱していたような患者が昨年秋以降に目立つようになった印象がある。COVID-19に特徴的な味覚・嗅覚異常がみられた患者は24名（27.0%）であり、約半数（全体の12.4%）がそれのみであった。全く自覚症状がなかった患者は17名（19.1%）であったが、2名を除き患者家族などの濃厚接触者であった。

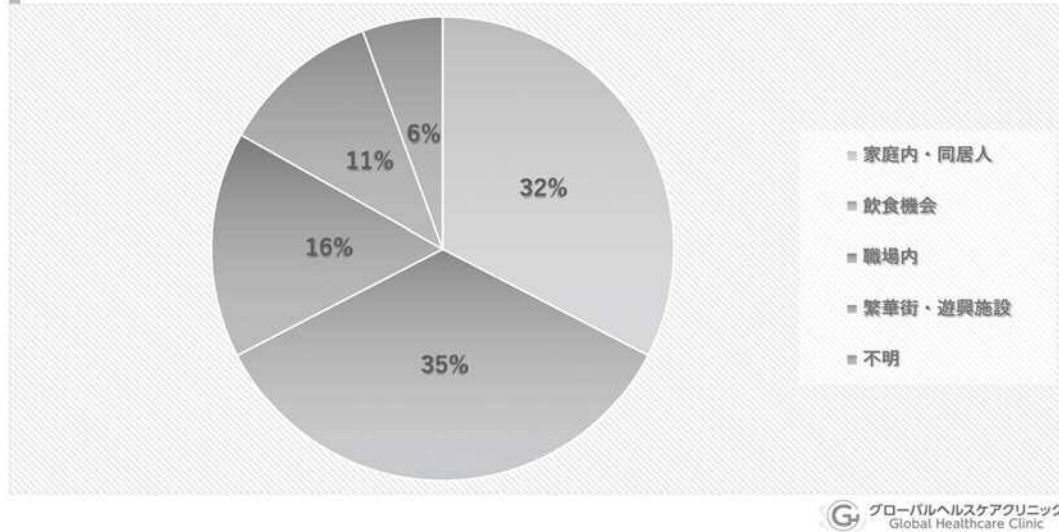
また全例に対して詳細な聞き取りを行った結果、感染経路がある程度特定された事例は84例（94.4%）で、飲食機会31名（34.8%）、同居者29名（32.6%）、職場14名（15.7%）、接待を伴う飲食店従業員等10名（11.2%）であった。

国内では全国民に対するワクチン接種が進行中である。講演時期にどの程度進んでいるのか、それに影響する全国的な感染状況がどのように推移しているのか、リアルタイムな状況を踏まえた上で2022年度に向けたCOVID-19対策の展望について概説したいと考えている。

当院における COVID-19 確定患者（2020.3～2021.5）



## 問診による推定感染経路



### <プロフィール>

水野 泰孝 グローバルヘルスケアクリニック（東京都千代田区）院長  
東京慈恵会医科大学大学院修了（熱帯医学専攻）。

同大学小児科学講座、タイ王国マヒドン大学熱帯医学部留学（DTM&H. 取得）、  
国立国際医療研究センター厚生労働技官、在ベトナム日本大使館医務官、  
JICA 感染症顧問医、東京医科大学准教授、  
同大学病院感染制御部長・感染症科診療科長・国際診療部長などを歴任し、  
2019年より現職。

専門は輸入感染症・渡航関連疾患・予防接種。